# 管理栄養士の

CONTENTS


災害時の栄養 1

## 熊本地震でも病院機能を維持 食事は欠かさず提供

社会医療法人令和会　熊本リハビリテーション病院　栄養管理科　科長　嶋津さゆり氏
総務課　主任　坂本和歌子氏

災害時の栄養 2

## 意外と手薄な水害対策 熊本豪雨からの教訓

独立行政法人地域医療機能推進機構　人吉医療センター　栄養管理室　副室長　中村利枝氏

災害時の栄養 3

## 災害を機に管理栄養士の仕事量は増大 利用者の摂取エネルギー量に十分な配慮が必要

社会医療法人財団董仙会　恵寿総合病院　臨床栄養課　小蔵要司氏

特集 被災地から学ぶ

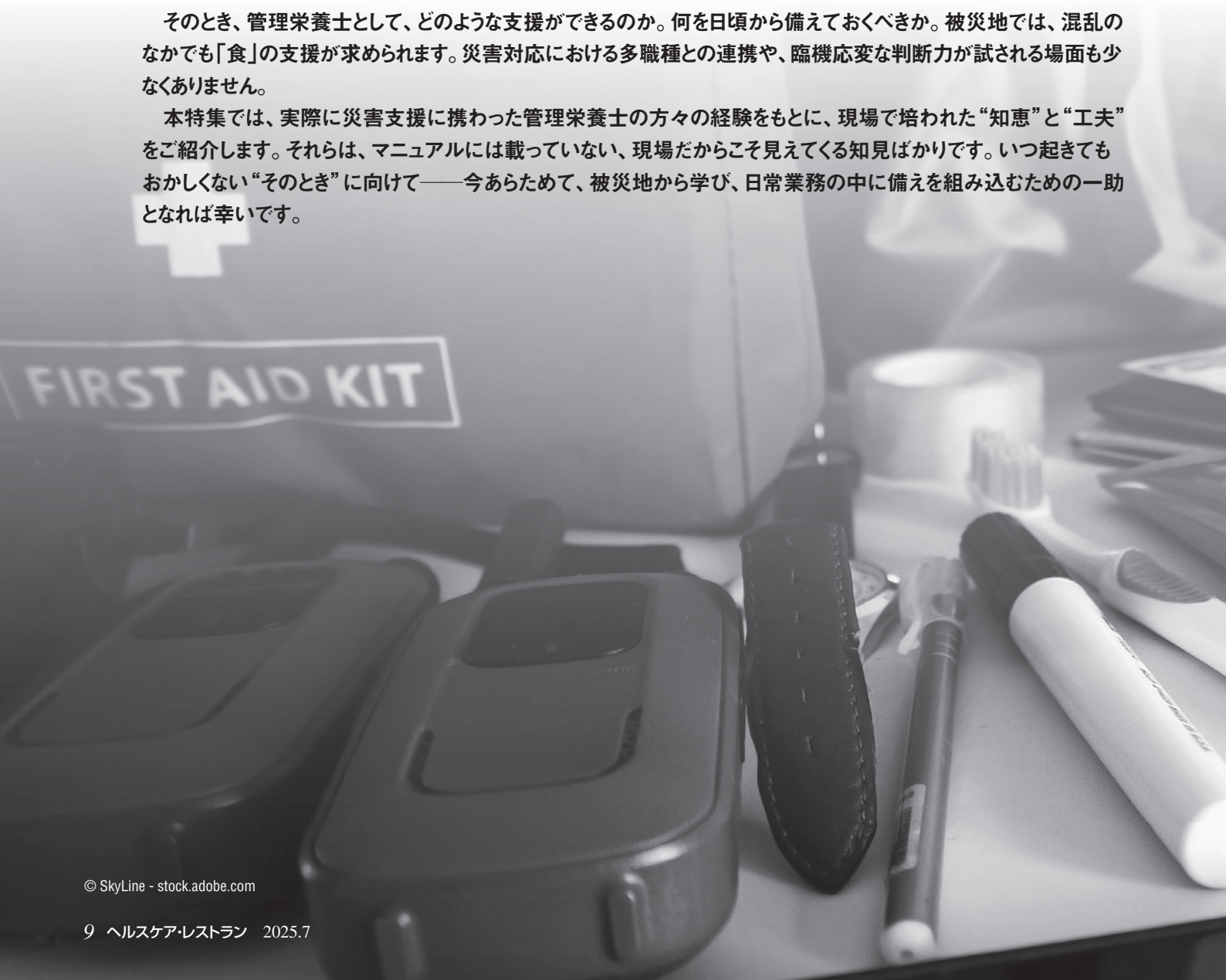
# 現場で活きた知恵と工夫

## ――いのちを支える「食」のチカラを、いま再考する――

地震、台風、豪雨――。自然災害が相次ぐ日本において、災害はもはや“想定外”ではありません。

そのとき、管理栄養士として、どのような支援ができるのか。何を日頃から備えておくべきか。被災地では、混乱のなかでも「食」の支援が求められます。災害対応における多職種との連携や、臨機応変な判断力が試される場面も少なくありません。

本特集では、実際に災害支援に携わった管理栄養士の方々の経験をもとに、現場で培われた“知恵”と“工夫”をご紹介します。それらは、マニュアルには載っていない、現場だからこそ見えてくる知見ばかりです。いつ起きてもおかしくない“そのとき”に向けて――今あらためて、被災地から学び、日常業務の中に備えを組み込むための一助となれば幸いです。




© SkyLine - stock.adobe.com

災害時の栄養
1

# 熊本地震でも病院機能を維持 食事は欠かさず提供

## 社会医療法人令和会熊本リハビリテーション病院

栄養管理科 嶋津さゆり氏　総務課 坂本和歌子氏

**熊本地震で最も揺れの大きかった町に離接しながら、発災後も病院機能の維持と地域支援において重要な役割を果たし続けた熊本リハビリテーション病院。どのような準備が効果を発揮したのか。当時の状況を知る栄養管理科の嶋津さゆり科長に話を聞いた。**

### 震源地近くも被害少なく 診察もすぐに再開

2016年4月に発生した熊本地震は、観測史上初めて同一地域において震度7の地震がわずか28時間の間に2度発生し、熊本県に大きな被害をもたらした。熊本県内の被害は死者278人、重軽傷者2800人以上、約20万棟の住家が被災、うち約4万3千棟が全壊または半壊となった。最も揺れが大きかったのが益城町で震度7を観測。社会医療法人令和会熊本リハビリテーション病院は、その益城町に隣接する菊陽町にある。

病院名のとおり回復期が中心の病院ではあるが、救急医療（二次救急）も行っている。

震災が起こったのは深夜の1時25分。管理栄養士で同院栄養管理科の嶋津さゆり科長は、発生から約30分後には病院に到着した。その時間に駆け付けることのできた人たちが1階の広場に集合した。まずは院内の被害状況を確認することになり、嶋津科長は厨房を中心に被害状況を見て回った。同病院は揺れが最も大きかった地域に近かったが、岩盤のしっかりした場所に建てられていたため、ハード面での大きな被害はなく、病院機能の維持は可能な状態だった。

夜が明けると部署長が集まって方針を決め、それに沿って職員は動くことになった。発生1日目は停電していたが非常用の自家発電機により問題はなく、MRIが確認のため一時使用できなかったため条件付きではあったが、できるかぎり他院からの患者を受け入れた。外来も早い段階で再開した。

ただ、学校や保育園が休んでいるため、職員の子どもを病院で預かることになった。もともと院内保育はあったが、利用していなかった職員のために増設しなければならなかったのと、臨時の学童保育を設置した。当初は職員が交代で見守っていたが、途中からはボランティアが集まってくれるようになった。

また、一般社団法人日本災害リハビリテーション協会（JRAT）が活動本部を同院に設置され、3ヶ月にあたり避難所などでのリハビリ支援が行われた。

栄養管理科 嶋津さゆり氏　総務課 坂本和歌子氏

### 非常時想定の厨房が威力発揮 食事はまったく影響を受けず

インフラはほぼ震災の影響を受けなかった。水道は地下水を利用していたので断水を免れたが、地震の影響で水質が悪化した。トイ